8 vol.138
広報　縄文村だより vol.138(8月号)

# Jomon Times

平成29年8月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928

## 縄文村の夏、はじまりました！

夏、縄文村イベントが一番活気あふれる季節です。釣りに塩づくり、夏のグルメまで…貝塚からわかった、海辺の縄文人の暮らしを存分に楽しみます！

### 漁り　縄文のすなどり

**か、かたい！シカの角で釣り針作り。**

6月3・4日の2日間、釣り針を作り、海釣りに挑戦する「縄文の漁り」を開催しました。里浜貝塚は、釣り針やモリ・ヤスといった漁具が多く出土することで有名です。その素材は「シカの角」。縄文人にならい、砥石や石器を使って釣り針を作りました。

形が出来るまで約4時間…。

**待ってろ、さかな！この釣り針で釣ってやる！**

2日目、早朝の集合ながら気合十分！奥松島の海へ出発します。10年以上の歴史がある当イベントですが、釣果は数例、いつも魚たちの勝利を伝えてきました。が、今年は数年ぶりに縄文の釣り針で釣れた！過去最大、全長40㎝のマコガレイです！釣ったカレイはあら汁と刺身に調理し、参加者みんなで試食。縄文針の勝利に酔いしれました。

つ、釣れたーーーー！！！

### 塩作り　縄文の塩作り

**おいしい塩を求めて！**

6月25日「縄文の塩作り」を開催。縄文時代、塩の一大産地だった里浜のムラ。製塩土器を作り、塩作りに挑戦します。今回は、製塩土器作り。海水が蒸発しやすいように薄く作ることを意識し作業を進めます。実は「リピーター」が多い塩作り。「製塩土器で作ると味がまろやかなんだよね」とその味が忘れられないよう。今年もたくさんのおいしい塩ができるように張り切りました。8月6日。作った土器で塩作りに挑戦します。

たくさん作った製塩土器。1か月後本番です。

## EVENT INFO　今年の「入館＆体験無料DAY！」は8月11日と13日に開催します♪

### EVENT 1　宮戸夏まつりコラボ企画　入館＆体験無料DAY！

開 催 日：8月11日（金）
体験時間：10:00 ～ 15:00
資 料 館：9:00 ～ 16:30

「あおみな」で開催される「宮戸夏まつり」(16:00～)とのコラボ企画。資料館の入館も縄文体験もどなたも無料！お昼は縄文村で遊んで、夕方からはあおみなでおまつり、夜は縄文村から打ち上がる花火をお楽しみください。この日は1日、宮戸島で遊んじゃおう！

### EVENT 2　夏休み企画　おいでよ、縄文村へ！

開 催 日：8月12日（土）～15日（火）
体験時間：10:00 ～ 15:00
参 加 費：入館料＋各種体験料（13日は無料）

毎年恒例の夏休み企画！期間中はおなじみの縄文体験のほか、日替わりのワークショップをご用意。お盆中のおでかけにもぴったりです。

**期間中毎日できます♪**

■貝塚ガイドツアー　￥0　10:30、13:00
■まがたま作り　￥400　■火おこし体験　￥150

**日替わりメニュー**

12日 コハクのアクセサリー￥800
　シカ角ストラップ￥400
14日 レプリカ作り￥400、
　縄文写真館￥0
15日 シカ角ストラップ￥400、
　縄文写真館￥0

**入館＆体験無料DAY！**　13日（日）開催。火おこし・まがたま・シカ角ストラップ・縄文コースターから選べます。

## もっと知りタイ！ 地域おこし協力隊 〈第4回〉

■問　地域おこし協力隊事務局　復興政策課地域振興班　☎内線1233

農漁業

### 松井（まつい） 直人（なおと）さん(42)

### 東松島は自然も人も魅力満載

宮戸地区で暮らす松井さんは、漁業と農業の両方にかかわりながら、その良さを地域内外に伝える活動を続けています。「地域の皆さんがとても優しくて親切です。人のよさ、住みやすさが東松島の魅力だと感じています」と話します。

埼玉県新座（にいざ）市でトラックの運転手として働いていた松井さんは、東日本大震災直後から積極的に東松島市を訪れてボランティア活動にあたりました。何度も訪れるたびに多くの発見があり、魅力を感じるようになりました。昨年7月には定住を決意し、それと同時に地域おこし協力隊の第1号として委嘱を受けました。

現在は大浜定置組合、宮戸干拓宮戸生産組合などの指導のもとで農漁業に従事しています。「以前の仕事はストレスを感じることも多かったですが、こちらに移り住んで自然と付き合う仕事を始めてからは、とても気持ちよく毎日を過ごせます」と、重労働も苦にならない豊かな自然の素晴らしさを話してくれました。

風光明媚（ふうこうめいび）な景観やカキ、ノリなどの魚介類の新鮮さ、そんな外部から見た地域の魅力を掘り起し、各種イベントで紹介して観光PRに努めています。「外からの者としての視点を大切にしながら、私の感じる東松島の魅力をさまざまな場所で発信していきたいです。自然も、人も、本当に素晴らしい地域で、その良さが少しでも外に伝わってくれればうれしいです」と肌で感じる温もりを噛み締めていました。